

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099400022		
法人名	社会福祉法人 サンヒルズふくち会		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	〒822-1212 福岡県田川郡福智町弁城3081番地1	0947-48-3187	
自己評価作成日	平成24年4月23日	評価結果確定日	平成24年05月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節感を十分に感じることが出来るよう、環境整備に力を入れている。ホームだけでなく、隣接するデイサービス、有料老人ホームの利用者の方達、音楽レクリエーションや踊り、体操等の指導者の方達との関わり、ふれあいを通して、地域とのつながりを感じ、また日常生活の活性化等を図り、閉鎖的な環境にならないよう努めている。個人を十分に尊重しながら、集団での生活を楽しく過ごすことができるよう、「関わる」ということを大切にしながら援助をしている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=40
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然が残る街中の広い敷地には、利用者職員が、丹精込めて育てたイングリッシュガーデンが広がる中に、デイサービス、有料老人ホーム併設のグループホーム「ほのぼの」がある。施設長の、「利用者一人ひとりのリズムで、自由に暮らし、自分で出来る喜びと、地域の一員として、安心して暮らしていく」という熱い思いを職員全員が理解し、実践に向けて取り組む姿は、頼もしく、家族の評価は高いものがある。利用者の重度化による家族との連携は、主治医との協力体制と合わせ、「ここを選んで良かった」と、利用者や家族から思われ、いつまでも安心して暮らし続ける、支援体制を構築している。また、理学療法を専門的に取り入れたホーム独自のリハビリと、美味しい食事を楽しく食べる環境は、利用者一人ひとりの、心身機能の維持、向上に結び付き、健康管理体制は万全のものがある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 24年05月15日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(普通の生活を送ることが出来るよう、家庭的な環境の中で、穏やかで安らぎのある生活づくりの実現、自由でゆったりとした中で個別の暮らしを大切にしてもらう)という事業所の理念の下で、日々の援助に努めている。	職員は、利用者一人ひとりの尊厳と、生活リハビリで生活の質を保ちながら、地域社会の一員として、ゆったり安心、穏やかで自由な暮らしが続けられるよう理念を掲げ、実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の方が、ホームへの訪問(小、中学校の職場体験、幼稚園の慰問、コーラス、俳句会等)を通じて交流に努めている。	コーラス、俳句会のボランティアや、小、中学校の体験学習、利用者が楽しみにしている幼稚園児の訪問等を受け入れ、地域の文化祭に出展したり、花火大会、藤まつり等に参加し、年々交流の輪が広がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	限られた職員と、重度化、高齢化した利用者の方達の増加のため、時間的に余裕がとれない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、家族、地域、行政の参加により、幅広く情報を収集したり、サービスの実績報告を行ったりして、そこで得られた意見等を今後のサービスに活かしている。	会議は2ヶ月毎に開催し、委員から、情報提供、質問、提案等が積極的に出され、ホームの現況、課題等報告し、活発な意見交換会になっている。また、会議終了後に食事会や避難訓練を行う等、会議のマナー化を防ぐ工夫をしている。	参加委員が多忙なため、定期的な会議の開催が難しい状況であるが、年間の日程を事前に決定する等、運営推進会議の年6回の定期開催が望まれる。
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場管理の施設を借りて、町内だけでなく周辺市町村のホームの方達とで結成している連絡協議会を毎月開催し、それぞれのホームの存在や、役割を認識してもらっている。定期的に勉強会も実施している。	施設長、管理者は、行政窓口へ度々出向き、情報交換や相談を行う等、日頃から連絡を密に取るように努めている。また、役場の施設でグループホーム連絡協議会を行なう等、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の理念、方針を掲げ、定期的に勉強会を開催している。どのようなケースが身体拘束にあたるかを学び、身体拘束を絶対しないという意味を持って、ケアを実践している。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、職員間で常に話し合い、身体拘束が利用者に及ぼす弊害を理解し、職員間でチェックしながら、身体拘束をしないケアの実践に向けて取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待といっても幅が広いので、定期的に勉強会を実施することで、どのようなケースが虐待に当たるのかを確認し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の内容を掲示し、また、定期的に勉強会を開催することにより、知識を得て、実践に役立つよう支援している。	現在該当者はいないが、制度の資料やパンフレットを用意し、外部や内部の研修会で職員が理解し、利用者や家族が必要とする時にいつでも説明し、活用出来るための支援体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や内容変更の時には、わかりやすいよう丁寧な説明をしたり、文書を送付したりしている。内容がわからなければ、尋ねてもらっている。また、必要時、問い合わせ時には、その都度説明をしている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人、家族の要望を積極的に受け入れ、サービスへ反映させている。苦情、相談等受付担当者を設置している。また、家族の方の来園時や連絡等で要望があった場合、全員で共有し、利用者の方々へのサービスにつなげている。	職員は、面会時、電話等で家族の要望を聴き取り、利用者へ寄り添い、意向や思いを把握できるように努力している。また、意見箱、苦情相談窓口を設置し、気楽に相談できる環境を提供している。	ホームでの行事等を利用して、家族が集う機会を積極的に設け、家族同士が不安や悩みを話し合える場を作る事を期待したい。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種会議、ミーティング、勉強会において意見や提案を聞いている。また、毎日の勤務の中でお互いでコミュニケーションを取り合い、少しでも仕事のしやすい環境を作ることに努めている。	毎月定期的に職員会議を開催し、カンファレンスから研修会まで幅広く実施し、限られた時間を有効に使い、職員のアイデア、提案等を積極的に取り入れ、働きやすい環境を目指している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が目的を持って、やりがいを感じて働ける環境作りと、労働条件の改善及び賃金の改善に努める。その為に、法人の健全経営に努めると共に、地域住民や利用者信頼される質の高い福祉サービスの提供ができるよう努める。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の個性を尊重し、互助の精神と受容の精神でお互いを認め合い尊重し、職場に於いて個々の能力を十分発揮できるような環境作りにも努めている。	職員の採用は、年齢、性別、経験等の制限はなく、やる気、協調性等を参考にしながら人物本位で行なっている。また、職員の能力や個性を活かして、勤務体制や担当等を決め、職員が生き生きと仕事しやすい環境作りを目指している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員会議、研修や勉強会等を通して取り組んでいる。	ホームの理念を唱和したり、利用者の人権を尊重する取り組みを職員間で話し合う等、利用者の尊厳を守るための取り組みと実践がされている。また、啓発活動に繋げるための工夫がある。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修、勉強会、職場内での実践研修等積極的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	田川市郡内、その周辺の連絡協議会に参加し、研修会を実施、情報交換、空き状況の確認や入居希望等の紹介、研修会等を開催している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験見学、訪問の他、事前にホームの運営方針を十分に説明している。また、希望、相談等いつでも受け付ける旨を伝えている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前見学及び相談者や家族との十分なコミュニケーションを図り、良好な信頼関係を築くことが出来るように努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族のニーズの把握が出来るよう努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者として、また人生の先輩ということを念頭に置いた上で、同じ人間で、同じ環境で生活をしているという思いを持ちながらサービスを実施している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方達の日常生活の状況や、受診内容等を報告したり、家族の要望、相談を聞いたりすることで、よりよい関係を作り、お互いが利用者の方達のことをしっかりと考え、支えていくよう心掛けている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事、行きなれた、また住んでいた地域や自宅周辺をドライブ、散歩することで、昔を思い出してもらったり、近所の方達や馴染みの方達と話しをする時間を作ったりして、利用者の方達の今までの人生を大切にすることを心掛けている。	隣のデイサービス利用者と馴染みの関係になり、居室に遊びに来られたり、デイに遊びに行ったりの交流を深めている。また、利用者の自宅周辺や思い出の場所等をドライブしたり、買い物に行ったりして昔を思い出してもらい、利用者の大事な人や場所との関係継続に努めている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方達の個別性、それぞれの間人間関係を十分把握し、過ごしやすく、楽しい生活が出来るよう心掛けている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退所しても、いつでも連絡、相談を受け付けている旨を伝えている。	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位、そして家族の意向を十分配慮して、サービスにつなげていくことが出来るよう心掛けている。また、スタッフの意見を聞きながら全員で協力し支えあって、利用者の方達へのサービスを実施している。	職員間の異動や離職が少ないので、利用者職員は馴染みの関係であり、家族との関係も良い。相互信頼の上で、職員は利用者寄り添い、思いや意向を把握し、出来るだけ希望に副えるよう支援をしている。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の方、家族の方達から話を聞き、その方がどのように生活をされてきたのかを把握下上でサービスを実施している。	
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人その人の生活のリズムや体調、気分等を確認しながらサービスを実施している。	
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	おおむね三ヶ月に一度プランの見直し、その間にモニタリングを実施し、プランに沿ったサービスが実施されているかを確認している。また、本人、家族の意見や要望を聞き取り、スタッフと相談しながらプランを作成している。	介護計画は、利用者や家族の希望を聞きながら、毎月のカンファレンスで検討し、3ヶ月毎に作成し、利用者の状態変化に合わせてその都度、見直しを図っている。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の状態や出来事を記入し、全員が確認するようにしている。また、日々の記録も十分参考にしながらプランを作成している。	
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の方はもちろん、近隣の方達からの相談、要望を聞く柔軟性を持っている。隣接しているデイサービスや有料老人ホームの利用者の方達と触れ合うことで、事業所の孤立化を防いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>警察、消防署や消防団、役場としっかり連携をとっている。また、地域行事や自然の状況を確認し、積極的に参加、外出援助をしている。</p>		
32	14	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人のかかりつけ、また家族の要望等に答えられるよう援助している。様々な医療機関と連携、連絡、相談を実施している。</p>	<p>利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援をしている。また、協力医療機関との連携は密であり、かかりつけ医と協力しながら、迅速で充実した医療が受けられる体制である。</p>	
33		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携加算により、デイサービスの看護師に支援を依頼し、より安心、安全、健康的で充実した日常生活を送ることが出来るよう援助している。</p>		
34		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時、本人の状況確認や相談を実施し、現状把握に努めている。退院がいつでも良いように、受け入れ態勢を整備している。</p>		
35	15	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>以前数名の方に対しターミナルケアを実施。医療、家族、スタッフが協力し、最期の時をその人らしく過ごすことが出来る要支援を実施した経験がある。</p>	<p>ターミナルケアの指針を作成し、利用者や家族に説明し、理解を得ている。利用者の重度化に合わせ、利用者、家族、主治医、各関係者が、常に話し合い、ターミナルケアを経験した職員が中心になり、家族と連携し、意向の確認しながら支援していく方針が出来ている。</p>	
36		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変事、事故発生時のマニュアルを参考に勉強会を実施している。医療連携による看護師との連携により、スタッフ各自のレベルアップが十分期待できる。</p>		
37	16	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年二回の火災訓練を実施。また、二、三年前にあった水害を教訓に、非常時に対するの心構え、避難誘導や連絡体制を確立している。警察、消防、地域の青年団に協力をお願いできる体制も整えている。</p>	<p>防災訓練は、年2回実施し、火災だけではなく、風水害、地震等にも対応出来る避難訓練を実施し、水害の経験を活かした取り組みを実践している。スプリンクラーの設置と、非常災害機器、非常口、避難経路、避難場所の確認等、日常的に実施している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者各自の個性、性格を重視し、親切、丁寧、やさしい口調を心がけ、サービスを提供している。また、プライバシー保護の目的の元、利用者の方達のプライバシーにも十分配慮している。	職員は、利用者のプライバシーを尊重する取り組みの中で、人生の大先輩として敬い、優しい言葉かけとさりげない見守りに対応している。また、利用者の個人情報や記録類は、人目に触れない安全な場所で保管されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが決めるのではなく、利用者本人が意思表示や決定できるよう援助、または言葉での誘導を実施している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペース、体調や気分等に十分配慮しながらのサービスを実施している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望、好みの服装、身だしなみが出来るよう援助している。また、季節感に対しても配慮している。理美容に関しても、移動理美容、行きつけの美容室への送迎も実施している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力を把握した上で、その人その人のペースに合わせて実施している。	利用者の健康を維持していくために、旬の野菜を中心とした美味しい食事の提供が行なわれている。利用者と職員が同じテーブルで、笑い声の中、楽しく食事することで食欲が増進し、利用者の残存能力に合わせた手伝いは、利用者の自立支援に結び付いている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分補給の確認を実施し、記録に残している。自分で摂取困難な方に対しては、定期、随時に水分等を補うことが出来るよう援助している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを実施し、口腔内の確認を実施している。自分で口腔ケアが難しい方は、食後に介助にて清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在オムツ使用は夜間帯の二名のみ、日中はリハビリパンツ、パッドにて対応。訴えることが出来る方はその都度、困難な方に対しては、定期的にトイレ介助を実施している。	トイレでの排泄を原則に、細やかな声かけ等、利用者が安心してトイレで排泄出来る支援体制を確立している。また、オムツから、リハビリパンツや布パンツに変更する等、利用者の自信回復に繋げる取り組みを実践している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、魚を中心とした食事の提供、十分な水分量の確保、適度な運動等、本人のペースに合わせたサービスを実施している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後問わず、本人の希望時に入浴が出来るよう援助している。意思表示困難な方に対しては、体調等を考慮しながらの声掛け、入浴準備や介助を実施している。	利用者の希望する日時に入浴が出来るように、職員全員で努力し、毎日入ることも可能である。また、拒否者や体調不良の利用者に対しては、状態に合わせ、自由に変更できる柔軟な体制である。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動後に横になったり、ベッド等の介助を行ったりとその人その人のペースに合わせての休憩時間を確保している。また、夜間帯に関しても同様で、個人のペースでの就寝時間を確保している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況が一目でわかるようファイルを作成している。また、服薬の確認、及び服薬後の状態を確認するように心掛けている。看護師との連携も大事にしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人と集団、そのバランスを十分考慮しながら、個別、集団での活動、外出や気分転換が出来るよう援助している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があるときは確実に外出援助を実施している。また、希望や訴えがない方に対しては、気分転換や外の空気を吸う、陽の光にあたる、自然を感じる、地域や季節ごとの行事への参加等、外へ出る機会を積極的に作っている。	イングリッシュガーデンの散歩、庭の手入れ、買い物、ドライブ等、利用者の体調に合わせ、天気の良い日は、出来るだけ戸外で過ごせるように支援し、季節を肌で感じてもらうようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭自己管理者は三名。うち一名は、残高不足の場合、要望がある。また、うち一名は、家族来園時に訴えている。その他の方は事務所及び家族が管理している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話等の援助をしている。また、利用者の方、家族の方の間に入って話しをすることもある。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や飾り等、季節を感じることが出来るような工夫をしている。静かで穏やかに過ごすことができるような環境づくりを心掛けている。	美しい庭園から吹き込む風は、爽やかな香りと共に室内に流れ、落ち着いた玄関、廊下、リビングには、季節の花が活けられ、音や光、匂いにも気を配り、利用者や職員が心穏やかに、居心地良く過ごせる共用空間になっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるリビングでは、利用者それぞれがテレビを見たり、会話を楽しんだり、時にはそこで休んだり、思い思いに過ごしている。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が使用していたものを中心に、本人や家族、スタッフが相談しながら、本人が落ち着いて、穏やかに生活することが出来るよう、環境づくりに配慮している。	利用者に、出来るだけ自宅と違和感のない暮らしをしてもらうために、家族の協力を得て、利用者の使い慣れた家具や小物を持ち込んでもらい、自由でのんびりと毎日を暮らせるように支援している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂場、玄関先のスロープ等には、手すりを設置している。照明の明るさに関しても配慮している。また、自室、トイレ、風呂場がわかるようネームプレート等を準備している。		